

令和3年9月17日

南の風 415

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

それを親からも指摘されながら育ちました。しかし、そのことは改善されないまま大人になります。

さらに悪いことに(?)、サッカー監督という組織のなかで極度にアンタタッチャブルなポストに就いて、ますます「怒りん坊」が助長されていた時期がありました。

私が賢い感情の取り扱い方法を学べば、イライラや怒りに無駄に振り回されることがなくなる。怒りを程よい加減で適時に適所で表現できるようになるだろう。そこを目指して取り組みました。

不思議なことに、そのプロセスでメンタルコーチから「怒ってはだめ」とか「怒らないようにしましょう」というメッセージは、一切ありませんでした。怒りは、必要な感情のひとつであるという理解なのでしよう。

加えて、アンガー・マネジメントのトレーニングも個人的に受けました。日本でもメジャーなプログラムなので、ご存じの方は多いかと思えます。無論、内容はまったく同じではないと思いますが、私は「思考」「感情」「アクション(行動)」といった三要素の関係性を学び、怒りの仕組みを理解しました。

果たしてEQが高まったかどうかは「？」ですが、自分の感情と距離をとることを学んだことで変化がありました。少なくともそれまでかなりストレスフルな指導をしていた自分からは解放されました。勝たなくては。結果を出さなくては。そんな「こうならなくては」と焦る気持ちを分解し、意識を選手の成長にフォーカスできるようになりました。コーチングを心から楽しむ余裕が生まれたのは間違いありません。

～ 中略 ～

ペティコミテをやめよう

私たちの改革の話をするとき「お互いの指導にダメだしするときにけんかになりませんでしたか？」とよく聞かれます。皆さんが想像されるほど、そんなに争わなくて済みました。要因は4つあると考えます。

ひとつめは、すでにお話しした口論が上手な国民性。2つめが、心の知能指数を上げる作業です。

加えて3つめが「ペティコミテは許さない」という文化でしょうか。スペインのみならず欧州全体に浸透しています。

このペティコミテはフランス語を起源とした言葉で「ミニ会議」を表します。日本で言うところの派閥みたいな小グループが形成され、あちらこちらでヒソヒソ話が多い組織は評価されません。「ここだけの話」が多いのは、成長できない組織と言われてしまいます。

私がバレンシアに移籍してすぐについた上司が、一番最初にチームのルール、約束事として教えてくれました。

「ペティコミテだけは絶対やめてくれ。じゃないとチームとして機能しなくなるから。言いたいことがあったら、自分に言いに来なさい」

次号も続けます。